

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る 「ふり返しシート(令和6年度)」調査報告書【概要版】

つるおかみらいフォーラム
令和7年9月30日
◆市からのお知らせ◆

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(令和3年3月策定)

■目指す方向性：地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進め、 (令和7年度) 住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、 さらに心豊かな暮らしを築く	■計画の柱：心が通い合う持続可能な住民自治組織づくり 住民の安全・安心な暮らしの確保 住民主体による地域課題解決力の向上 地域の特性を活かした魅力の維持・再発見
---	---

単位自治組織(町内会、集落)について

第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画での地域ごとの課題

鶴岡地域/247 組織	藤島地域/46 組織	羽黒地域/69 組織	櫛引地域/21 組織	朝日地域/38 組織	温海地域/27 組織
①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②活動の担い手となる人材の確保と育成 ③情報発信と会員確保 ④地域課題の解決に向けた取組の実施 ⑤災害に備えたコミュニティづくり ⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①各世代が参加しやすい活動に再構築 ②将来を見据えた持続可能な組織づくり ③広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し ④広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり ⑤地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築 ⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②多様な人材の活用と役員等の負担軽減 ③多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり ④お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり	①広域コミュニティ組織の検討 ②住民自治組織等の理解促進と事業の見直し ③次代を担う人材育成と後継者対策 ④安全・安心な地域の構築	①将来を見据えた持続可能な組織づくり ②住民による魅力的な事業づくり ③安全安心な地域づくりのための組織づくり ④単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し ⑤希薄化した連帯感の再構築	①健全な財政運営に向けた検討や組織の見直しによる役員等の負担軽減 ②将来を見据えた単位自治組織の検討 ③安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進 ④次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり ⑤高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり ⑥広域コミュニティ組織の検討

「ふり返しシート」回答から一部抜粋(括弧内は、回答いただいた組織の地域名と世帯数)

組織づくり ・総会で問題提起された組織体制の見直しについて、町内会と公民館の三役で協議した結果、公民館を町内会組織に統合することが決定した。総会において、役員数の段階的削減、会計の一本化、事業内容の見直しを提案し、承認された。役員数削減による担い手不足の緩和と、経費の削減が期待されている。(鶴岡：郊外地：31～100 世帯) ・少子高齢化が進む中で、行事の開催が困難となる状況を隣の自治会と相談し、祭りに隣の自治会の子どもたちから参加していただいた。町内の意識にも変化が現れ、協力で盛り上げようという気持ちが感じられた。(鶴岡：郊外地：301 世帯以上) ・仕事とのバランスを考慮し、極力「作業」は住民と触れ合う時間に費やし、「企画・進め方」は役員間で考え、各々の事業担当者とのコミュニケーションを図りながら進めることとした。負担削減を図るだけでなく、次の事業に繋がる活動となった。(藤島：30 世帯以下) ・子ども会役員も含め、各種役員・委員による合同会議を年1回(毎年2月)開催し、それぞれの立場から問題提起していただいている。年次総会にて取組み内容の報告を行い、町内会活動への参加意識の向上が図られた。(藤島：31～100 世帯) ・町内会の各事業について評価し、事業内容及び組織体制の見直しを行った。祭りの事業運営を若手に引き継いでもらえるようにした。(藤島：101～300 世帯) ・隣組の再編を行い、組数を減らしたことにより、隣組長選出の負担軽減が図られた。(朝日：31～100 世帯)	・公募による地区の未来会議を組織化し、地域の抱える課題について話し合い、地域課題が明確になった。(櫛引：31～100 世帯) ・近隣の集落(広域)との親交・交流のための親睦会などを継続して行った。(温海：31～100 世帯) 情報の伝達 ・集落の広報誌を発行するとともに、自治振興会の活動と合わせ、SNS で地域情報を発信した。行事への参加ができない住民にも、地域の動きについて周知が図られた。(鶴岡：郊外地：31～100 世帯) ・町内会厚生部、子ども会は LINE による情報共有を行った。公園清掃、資源回収などへの子どもたちとその親の参加が促され、町内会活動への理解が得られた。(鶴岡：市街地：301 世帯以上) ・これまでの定期的な会議の開催を見直し、役員の連絡などにメールなどを活用した。(羽黒：31～100 世帯以下) 人材の育成 ・町内会のルールが明文化されていないため、若い世代から町内会をどのように運営すべきかわからないという不安の声が寄せられていた。そこで、町内会の運営方針を明確にした町内会会則を制定した。この取組みにより、若い世代にも町内会の仕組みを理解してもらいやすくなり、運営に対する不安の軽減が図られた。(鶴岡：郊外地：30 世帯以下) ・役員の半数を女性で構成し、元気に町内会事業をまとめてもらっている。女性の視点が増えたことで物事がスムーズに進んだ。(鶴岡：市街地：31～100 世帯) ・小学生と保育園児の保護者から公民館事業に参加してもらい、連帯感を深め、人材の確保と育成に繋がった。(鶴岡：郊外地：31～100 世帯) ・複数人で役割を担うことで、用事などで参加が難しい場合でも、全体または専門部単位でカバーし合える体制を整えた。さらに、60 歳未満の現役世代の登用に挑戦した結果、役員 25 名のうち新たに 6 名の 60 歳未満の方が加わり、役員内での助け合いや協力がしやすい雰囲気生まれた。(鶴岡：市街地：301 世帯以上) ・自治会役員に若手女性を選任し、若手の考えを知ることができた。(朝日：31～100 世帯) 人のつながり ・2 年前にベルギー人が移住してきたため町内会の協力体制を話し合った。日本語は若干しか話せないものの、町内の集会に参加してくれるようになった。(鶴岡：郊外地：30 世帯以下) ・子どもから高齢者まで幅広い世代が参加する交流行事を実施し、会員同士の繋がりが深まった。世代交流グラウンドゴルフ大会には約 80 名が参加した。夏祭りでは盆踊りを開催し、多くの住民が参加することで地域の結びつきが深まった。(鶴岡：市街地：301 世帯以上) ・2 年前に老人クラブを解散したことにより、高齢者の元気が低下した。将来を見据えて 60～70 歳代を中心に役	- 員を割り当て、健康維持を目的とした体操サロンを立ち上げた(6 年度 8 回実施)。その結果、60～70 歳代の住民に日常生活の充実感が生まれ、さらに 80 歳代の住民の参加も促進された。(鶴岡：市街地：301 世帯以上) ・地域の連帯感を強めるため、子ども育成会と老人クラブ合同で「輪投げ大会」を開催している。毎年開催しており、お互いの顔と名前を覚えることができて好評である。(櫛引：31～100 世帯) ・地域づくり懇談会を開催し、老人クラブから青年部、小・中学校育成会など幅広い年齢層での交流を行った。各組織の活動内容を理解するうえで、有意義な場となった。(櫛引：101～300 世帯) ・コミセン主催の春と秋の資源回収を自治会と子ども育成会との合同事業として実施した。地域の一員であるという意識を子どもたちに感じてもらうことができた。(朝日：30 世帯以下) 見守り・支え合い ・単身高齢世帯への個別相談を行い、草刈りなどの支援を行った。また、留守宅の見守り、空き家に関する問合せ対応を行った。単身高齢世帯が増えつつあり、その方々を見守るようになった。(鶴岡：郊外地：30 世帯以下) ・組単位でのコミュニティを重視し、近所同士で支え合える独自の体制として「おたすけ会員」「おながい会員」の制度を整えた。防災台帳と組み合わせ、大雨や大雪などの際に対応する「おながい会員」について毎年アンケート調査を行い、要支援者を把握した。(鶴岡：市街地：101～300 世帯) ・隣組総会の開催を呼び掛け、いざという場合に隣近所が声を掛けあえるような関係づくりをお願いしてきた。また、住民参加型の避難訓練を実施し、避難放送を通じて自身の避難行動を考える機会を提供した。(鶴岡：郊外地：101～300 世帯) 子ども・若者 ・公民館の若手役員や高校生が企画し、毎年お盆に合わせて夏祭りを行っている。お盆の帰省で町内に戻られた方にも好評で、夏祭りを楽しみにしている人がいる。(鶴岡：郊外地：30 世帯以下) ・「山里あるき」のコースにもなっている散策道沿いで、上郷小学校 6 年生が課外活動として毎年桜の植樹を行っている。植樹をした子どもたちが成人して桜を観に訪れている。(鶴岡：郊外地：30 世帯以下) ・小学生がいる親子が中心となり、水辺の生き物調査を行った。どんな生物がいるか観察することで環境の大切さを再認識する良い機会となった。(鶴岡：市街地：31～100 世帯) ・子どもが減り、実施が困難となった子ども育成会事業の資源回収を自治会と合同で実施し、幅広い年齢の交流が生まれた。(朝日：31～100 世帯) ・祭典保存会を立ち上げたことで、祭典準備などの話し合いがスムーズに進んだ。夏祭りの準備段階から活動に子どもたちを入れた。(温海：101～300 世帯)
---	--	--

防 災 ・防災団員の研修会を実施し、要支援者の避難誘導における課題を話し合い、避難所開設にかかる課題などについて意見交換した。町内会を担う次の世代である防災団員と懇親を深め、人材育成にも繋がるようにした。(鶴岡：市街地：31～100 世帯) ・水害時の市の指定避難所である小学校と対象地域である 5 町内で、現場を確認しながら情報交換会を行うことができた。防災に関して一歩前進し、交換された情報を各自が持ち帰り、町内の防災活動に落とし込みたい。(鶴岡：市街地：101～300 世帯) ・自主防災計画にある防災部女性班の研修会を実施し、安否確認と避難所運営に理解と協力を求めた。(鶴岡：郊外地：101～300 世帯)	・災害時避難行動要支援者の個別の避難計画を作成した。自主防災計画・組織体制について町内会役員への周知を図り協力を要請した。(藤島：101～300 世帯) ・毎年継続して年 2 回、災害時を想定した安否確認訓練を行った。最新の家族構成状況の把握と防災台帳のメンテナンスができた。(櫛引：31～100 世帯) ・地震発生を想定した避難訓練を実施し、防災意識の向上が図られた。(朝日：30 世帯以下) ・自主防災会の活動として備品や避難所物品の整備を進め、防災意識を高めることができた。(温海：301 世帯以上) 空き家対応 ・単身高齢世帯への個別相談を行い、草刈りなどの支援を	行った。また、留守宅の見守り、空き家に関する問合せ対応を行った。単身高齢世帯が増えつつあり、その方々を見守るようになった。(鶴岡：郊外地：30 世帯以下) ・空き家からも町内会費を半額いただいており、家や木の現況把握を行った。(鶴岡：市街地：31～100 世帯) ・空き家管理について、所有者情報の把握、市との連携を図った。(藤島：101～300 世帯) その他 ・行事への参加者は高齢者が多く、若い世代はほとんど参加しないため、受け継がれてきた事業の継承が困難になってきている。単身世帯、高齢者のみ世帯の増加で地区会費の在り方や自治公民館などの維持管理費用をどのようにするか悩みである。(櫛引：31～100 世帯)
---	---	--

広域コミュニティ組織について

第 2 期鶴岡市地域コミュニティ推進計画での地域ごとの課題

鶴岡地域／21 組織	藤島地域／5 組織	羽黒地域／4 組織	櫛引地域／なし	朝日地域／3 組織	温海地域／なし
①時代に調和する運営や事業展開と持続可能な組織づくり	①地区自治振興会を核とした活動の推進	①身近な地域の居場所づくり		①住民理解の促進と単位自治組織への支援	
②「地域ビジョン」策定など地域課題解決に向けた取組の強化	②持続可能な運営方法の確立	②単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成		②人材の確保に向けた検討	
③コミュニティ防災のまちづくり	③地区内外の団体との連携強化	③郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり	※単位自治組織の関連項目(再掲)	③希薄化した連帯感の再構築	※単位自治組織の関連項目(再掲)
④単位自治組織の機能補完	④福祉と防災で新たな役割を確立	④自主防災組織と連携した防災の体制づくり	①広域コミュニティ組織の検討	④安全安心な地域づくりのための組織づくり	⑥広域コミュニティ組織の検討
⑤地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討	⑤「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	⑤安心して暮らし続けられるコミュニティづくり			
⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり					

「ふり返しシート」回答から一部抜粋 (括弧内は、回答いただいた組織の地域名)

持続可能な組織 ・文化祭をリニューアルし、子ども縁日や子ども食堂、高校生によるステージ発表を行ったほか、冬のレクリエーションに紙ヒコーキ飛ばしを取り入れるなど、これまでにない新しい事業展開が好評を得た。これらの取組みにより、小学生やその保護者、高校生など、これまでコミュニティセンターを訪れることが少なかった世代の方々が足を運んでくれるようになった。(鶴岡：第三) ・関係人口の増加を目的に、地区外との交流を通じて加茂の魅力を周知するための企画を実施した。10 月のまち歩きイベントでは、北前船による交流があった中山町とのコラボ企画として、芋煮の食べ比べを行った。鶴岡市民はもちろん、内陸地域の方々にも加茂地区の魅力を伝えることができ、今後のさらなる交流へと繋がった。(鶴岡：加茂) ・持続可能な地域運営に向けた実践活動として実施した補助事業「地域まちづくり未来事業」の終了に伴い、専門部会の見直しを行った。未来事業推進部と地域づくり部を統合し、地域づくり推進部とすることで、事業の継続と人材確保が図られた。(朝日：朝日東部)	世代間交流 ・地域活性化のため、「上郷みらいづくりワークショップ」を行い、小学生から高齢者まで集えるプロジェクトを選定した。プロジェクトは「GO！GO！かみごうプロジェクト」と命名し、DIY・マルシェ・e スポーツのプロジェクトを立ち上げ、大勢の住民の参加に繋がった。(鶴岡：上郷) ・小学生を対象とした青少年育成事業「わらしこ楽園」事業を年 6 回実施した。ボランティア活動や様々な体験を通し、多世代との交流を図った。(藤島：八采島) ・小学校や外部団体と連携し、農作業やそば打ち教室を通し世代間交流を実施した。地元小学生や親子事業を通し、農業の大変さや地域食材の美味しさを学ぶ機会となった。(羽黒：羽黒第四) ・令和 6 年度は地域語り合いの「交流編」を開催した。交流編では、朝日地域に移住された方と中学生を含む地域住民が語り合い、移住者の想いや中学生の今後の取組みなどについて、一緒に考える良い機会となった。(朝日：朝日中央) 支え合い ・平成 29 年に町内会ごとの防災マップを作成したが、更新していない町内会もあるため、自主防災部会でマップ更新に関する研修会を企画した。また、医療従事者の居住状況や各家庭の防災グッズの保有状況を町内会ごとに共有し、有事の際に協力しながら避難生活を送れるよう準備していきたい。(鶴岡：第六) ・「地域支え合いプラン」に基づき、「ほっとカフェ」と「地域ケアネットワーク会議」を開催した。「ほっとカフェ」を住民会への出張で行うことにより相談できる環境づくりができ、「地域ケアネットワーク会議」で介護保険について学び、福祉関係の情報共有ができた。(鶴岡：斎) ・ふじしま包括支援センターと連携し「長沼ゆったりカフェ(認知症カフェ)」を、ぼっぱの湯で 3 回開催した。認知症について学んだり、気軽に相談できる居場所を提供した。(藤島：長沼) ・朝日中学校と連携し、除雪ボランティア体験を実施した。地域内と中学生の声が響き渡り活気づいた。(朝日：朝日南部) ・高齢者世帯などの玄関前除雪や、屋根の雪下ろし状況を把握し、関係機関と連携して支援をした。克雪対策事業の実施により、地域住民が住み慣れた地域で安	心・安全に暮らすことができるとともに、住民同士が支え合う意識を醸成することができた。(朝日：朝日南部・朝日東部) 防 災 ・能登半島沖地震で発生したトイレや寒さの課題を受け、災害時備蓄品として段ボール簡易トイレやストーブ、アルミロールマット、毛布、段ボール簡易ベッドの確保を進めた。これらの備蓄品を地域防災訓練時に住民へ紹介し、防災に対する意識向上と災害時の安心感の確保に繋がった。(鶴岡：湯田川) ・自治振興会として初めて防災予算を組み入れ、一次避難場所への支援として水と非常食を購入・配備した。さらに、住民の防災意識を高めるため、防災講演会を開催した。これまで一次避難場所への支援がなかったこともあり、住民の自助・共助の意識が高まった。(鶴岡：加茂) ・地区を 5 ブロックに分け、集落自主防災会や振興会防災安全部、消防、警察などと連携しながら、毎年順番で防災訓練を実施し、担当ブロック避難訓練や炊出しなどを実際に体験した。(羽黒：泉) 行 事 ・毎年各自治会の文化財巡りを計画し、ウォーキングを含めた行事に取り組んだ。文化財愛護会より横光利一文学碑や椿山宮有記念碑などの説明を受け、地域の文化財に対して新たな認識を持つ機会となった。(鶴岡：上郷) ・地域共創プロジェクト事業として、デジタル人材養成講座を開催した。また、育成した人材を希望があった地域に派遣し、住民を対象としたスマホ教室を開催することができた。(朝日：朝日中央) 新たな取組 ・認知症予防を目的に、昔の遊びや現代の遊び(e スポーツ)を楽しみながら行う脳活サークル「令和のてらこや」を発足した。当初は 6 名でスタートしたが、直近では参加者が 20 名に増え、地域に溶け込んだ活動となっている。(鶴岡：湯田川) ・森林による温室効果ガスの削減や吸収量を企業に販売する J-クレジットの創出に向け、コンサルタントとやり取りを行った。クレジットで得た収益を森林整備や林業の担い手の確保、地元木材の PR に充てる方向で検討していく。(鶴岡：三瀬) 連帯感の再構築 ・中学生に地区運動会運営を手伝ってもらうことで、自分たちが地域に必要とされていることを実感してもらえた。この経験を通じて、地域の中で自分たちが活動できる場所があることを再認識してもらえた。(鶴岡：湯田川) ・顔の見える関係づくり、少子高齢化やコロナ禍で停滞した地域活動を強化することを目的に、「西郷の未来を考えるネットワーク交流会」をブレ開催した。様々な意見の集約ができたことで地域づくりの構想が見え、若干の前進と考えている。(鶴岡：西郷)
---	---	---